

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年7月11日
【四半期会計期間】	第15期第2四半期（自平成26年3月1日至平成26年5月31日）
【会社名】	株式会社エスプール
【英訳名】	S-Pool, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 浦上 壮平
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋二丁目15番3号
【電話番号】	03(3517)6633（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐藤 英朗
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋二丁目15番3号
【電話番号】	03(3517)6633（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部担当 佐藤 英朗
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第2四半期 連結累計期間	第15期 第2四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日	自 平成25年12月1日 至 平成26年5月31日	自 平成24年12月1日 至 平成25年11月30日
売上高 (千円)	2,600,669	3,237,717	5,365,787
経常利益 (千円)	52,890	118,364	49,008
四半期(当期)純利益 (千円)	44,129	99,949	44,819
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	44,732	99,858	45,258
純資産額 (千円)	187,759	464,270	188,285
総資産額 (千円)	1,374,267	1,998,925	1,508,514
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	17.08	36.75	17.35
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	13.6	23.1	12.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	85,678	82,337	64,223
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	37,887	88,281	130,795
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	12,930	249,273	6,730
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	594,590	729,755	486,426

回次	第14期 第2四半期 連結会計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日	自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.28	32.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（ビジネスソリューション事業）

平成25年12月1日を効力発生日として、会社分割（簡易新設分割）により新たに連結子会社である株式会社エスプールロジスティクスを設立し、当社のロジスティクスアウトソーシング事業を承継しております。

（人材ソリューション事業）

主要な関係会社について異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、デフレ脱却に向けた政府及び日本銀行の財政・金融政策等より株高・円安基調が継続しており、企業収益は大きく改善し、個人消費にも拡大の動きが見られます。消費税増税の影響による一時的な減速は見られるものの、国内景気は概ね持ち直しの動きが続いております。雇用情勢についても、このような国内景気の緩やかな回復を背景に改善傾向にあり、厚生労働省が発表した平成26年5月の全国の有効求人倍率は1.09倍と、18ヶ月連続で上昇しております。幅広い業種で求人が増加し、特に製造業やサービス業においては人材不足感が強まっております。

このような環境の下、当社グループは、当連結会計年度の事業方針である、赤字・先行投資サービスの早期収益化と主力サービスの積極拡大の2点に絞って事業を推進してまいりました。特に主力の3サービス（人材派遣サービス、ロジスティクスアウトソーシングサービス、障がい者雇用支援サービス）については、人材派遣を中心に需要が好調に推移し、順調に拡大しました。一方、赤字・先行投資サービスの早期収益化については、スマートメーター関連の業務が拡大するとともに、他のサービスにおいても黒字化、あるいは赤字の削減が進み、収益貢献することとなりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,237,717千円（前年同四半期比24.5%増）、営業利益は122,947千円（前年同四半期比106.0%増）、経常利益は118,364千円（前年同四半期比123.8%増）、四半期純利益は99,949千円（前年同四半期比126.5%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

ビジネスソリューション事業

株式会社エスプールロジスティクスにてロジスティクスアウトソーシングのサービスを、株式会社エスプールプラスにて障がい者雇用支援サービス及び付随する農園運営事業を、株式会社エスプールにて、フィールド調査アウトソーシング、マーチャライジング等のサービスを提供しています。

なお、平成25年12月1日を効力発生日として、会社分割（簡易新設分割）により新たに連結子会社である株式会社エスプールロジスティクスを設立し、株式会社エスプールのロジスティクスアウトソーシング事業を承継しております。

当第2四半期連結累計期間においては、主力のロジスティクスアウトソーシングと障がい者雇用支援サービスがともに順調に拡大しました。ロジスティクスアウトソーシングにおいては、前第2四半期連結会計期間に業務を開始した神奈川県の大規模物流センターの運営代行業務が売上増加に大きく寄与しております。障がい者雇用支援サービスにおいては、運営する農園への参画企業が計画を上回るペースで増加している他、就労移行支援施設の稼働率と同施設からの就職支援も増加しました。また、フィールド調査アウトソーシングにおいて、電力会社が推進するスマートメーター関連業務が大きく増加しました。一方、損益面においては、ロジスティクスアウトソーシングにおいて新規立ち上げ現場の影響で利益率が低下したものの、その他のサービスの増収効果により増益を達成しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,319,153千円（前年同四半期比40.1%増）、営業利益は124,037千円（前年同四半期比37.6%増）となりました。

人材ソリューション事業

株式会社エスプールヒューマンソリューションズにおいて、人材派遣、人材紹介等、人材に係わるサービスを提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、主力の携帯電話販売業務において、キャンペーン業務の積極的な受託やグループ型派遣の推進等により、売上が大きく増加しました。また、コールセンター業務においては、定着率向上のための様々な施策を行い、受注が増加しました。人材の採用市場は依然として逼迫しておりますが、受託業務の長期化を推し進めたため、販売費及び一般管理費の増加率を売上増加率以内に抑えることができました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,973,085千円（前年同四半期比14.2%増）、営業利益は170,737千円（前年同四半期比17.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から490,411千円増加（32.5%増）し、1,998,925千円となりました。当第2四半期連結累計期間においては、新株予約権の行使や長期借入金の新規借入によって現金及び預金が増加するとともに、売上の拡大に伴って受取手形及び売掛金が増加したため、流動資産が428,916千円増加しました。また、株式会社エスプールプラスにおいて第二農園の建設を進めていること、及び、グループの基幹業務システムの更新により、固定資産が61,494千円増加しております。

負債

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末から214,425千円増加（16.2%増）し、1,534,655千円となりました。当第2四半期連結累計期間においては、短期借入金や未払消費税等、賞与引当金の増加等によって流動負債が174,932千円増加しました。また、長期借入金の新規借入により固定負債は39,492千円増加しております。

純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末から275,985千円増加（146.6%増）し、464,270千円となりました。これは、主に新株予約権の行使による資本金及び資本剰余金の増加並びに当第2四半期連結累計期間の四半期純利益によるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の12.4%から10.7ポイント改善して23.1%になりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は243,329千円増加し、729,755千円となりました。各活動によるキャッシュ・フローの状況と要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比3,341千円減少の82,337千円の収入(前年同四半期比3.9%減)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が前年同四半期と比較して65,185千円増加し118,075千円であったものの、売上債権の増加を主要因とした運転資本の増加が69,420千円、法人税等の支払額が11,761千円発生したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比50,394千円増加の88,281千円の支出(前年同四半期比133.0%増)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出54,948千円及び無形固定資産の取得による支出33,835千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、249,273千円の収入(前年同四半期は12,930千円の支出)となりました。収入及び支出の内訳は、短期借入金の増加33,600千円、長期借入れによる収入100,000千円、長期借入金の返済による支出40,482千円、新株予約権の行使による株式の発行による収入172,900千円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、事業の拡大に伴い、正社員と契約社員を合わせた常用雇用の従業員数が、人材ソリューション事業で15名、ビジネスソリューション事業で22名、それぞれ増加しております。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,032,000
計	10,032,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年7月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,765,400	2,785,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	2,765,400	2,785,400	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年7月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年3月1日～ 平成26年5月31日	-	2,765,400	-	237,159	-	87,159

(注) 平成26年6月1日から平成26年6月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が20,000株、資本金及び資本準備金が9,578千円それぞれ増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成26年 5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
浦上 壮平	東京都台東区	572,800	20.71
吉村 慎吾	東京都世田谷区	526,400	19.04
エスプール従業員持株会	東京都中央区日本橋 2 - 15 - 3	130,700	4.73
GMOクリック証券株式会社	東京都渋谷区桜丘20 - 1	129,400	4.68
佐藤 英朗	東京都江東区	110,700	4.00
赤浦 徹	東京都港区	106,500	3.85
白石 徳生	東京都八王子市	66,000	2.39
竹原 相光	東京都世田谷区	65,900	2.38
中村 勝人	東京都足立区	60,000	2.17
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町 1 - 4	56,600	2.05
計	-	1,825,000	65.99

(注) 浦上壮平の所有株式数には、株式名簿上はマイルストーンキャピタルマネジメント株式会社名義となっている、同社との株式貸借取引契約に基づく貸株130,000株を含めて表記しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年 5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,764,900	27,649	-
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	2,765,400	-	-
総株主の議決権	-	27,649	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年12月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	486,426	729,755
受取手形及び売掛金	645,315	794,903
商品	6,500	2,733
仕掛品	-	3,058
その他	107,170	146,126
貸倒引当金	9,779	12,027
流動資産合計	1,235,632	1,664,549
固定資産		
有形固定資産	167,104	202,705
無形固定資産	12,797	40,579
投資その他の資産		
その他	119,436	121,320
貸倒引当金	26,457	30,228
投資その他の資産合計	92,979	91,092
固定資産合計	272,881	334,376
資産合計	1,508,514	1,998,925
負債の部		
流動負債		
買掛金	115,128	121,403
短期借入金	476,400	510,000
1年内返済予定の長期借入金	72,364	91,938
1年内償還予定の社債	20,000	-
未払法人税等	15,288	28,618
未払費用	286,118	301,354
賞与引当金	13,780	31,288
その他	188,655	278,064
流動負債合計	1,187,735	1,362,668
固定負債		
長期借入金	98,460	138,404
資産除去債務	26,078	26,215
その他	7,956	7,367
固定負債合計	132,494	171,986
負債合計	1,320,229	1,534,655
純資産の部		
株主資本		
資本金	150,000	237,159
資本剰余金	-	87,159
利益剰余金	37,363	137,312
自己株式	-	20
株主資本合計	187,363	461,611
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	438	348
その他の包括利益累計額合計	438	348
新株予約権	482	2,310
純資産合計	188,285	464,270

負債純資産合計

1,508,514

1,998,925

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日)
売上高	2,600,669	3,237,717
売上原価	1,916,942	2,427,877
売上総利益	683,727	809,839
販売費及び一般管理費	624,039	686,892
営業利益	59,687	122,947
営業外収益		
受取利息	109	119
還付消費税等	-	1,358
受取保険金	-	3,922
持分法による投資利益	976	-
その他	360	218
営業外収益合計	1,446	5,618
営業外費用		
支払利息	6,999	7,253
社債利息	543	135
持分法による投資損失	-	1,671
支払手数料	700	1,140
その他	2	1
営業外費用合計	8,244	10,201
経常利益	52,890	118,364
特別損失		
固定資産除却損	-	288
特別損失合計	-	288
税金等調整前四半期純利益	52,890	118,075
法人税、住民税及び事業税	11,167	26,113
法人税等調整額	2,406	7,986
法人税等合計	8,760	18,126
少数株主損益調整前四半期純利益	44,129	99,949
四半期純利益	44,129	99,949

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	44,129	99,949
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	602	90
その他の包括利益合計	602	90
四半期包括利益	44,732	99,858
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	44,732	99,858
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	52,890	118,075
減価償却費	6,948	19,826
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,408	6,020
賞与引当金の増減額(は減少)	31,049	17,507
受取利息及び受取配当金	109	119
支払利息及び社債利息	7,542	7,388
持分法による投資損益(は益)	976	1,671
固定資産除却損	-	288
売上債権の増減額(は増加)	1,386	149,587
たな卸資産の増減額(は増加)	54	708
仕入債務の増減額(は減少)	23,268	6,275
未払費用の増減額(は減少)	34,007	15,645
その他	16,238	57,538
小計	91,813	101,239
利息及び配当金の受取額	109	119
利息の支払額	7,758	7,260
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1,514	11,761
営業活動によるキャッシュ・フロー	85,678	82,337
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	31,465	54,948
無形固定資産の取得による支出	6,250	33,835
定期預金の払戻による収入	19,000	-
関係会社株式の取得による支出	2,028	-
敷金及び保証金の差入による支出	12,612	2,425
敷金及び保証金の回収による収入	4,004	2,638
貸付けによる支出	8,680	-
貸付金の回収による収入	144	289
投資活動によるキャッシュ・フロー	37,887	88,281
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	16,802	33,600
長期借入れによる収入	50,000	100,000
長期借入金の返済による支出	26,128	40,482
社債の償還による支出	20,000	20,000
新株予約権の発行による収入	-	3,276
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	172,900
その他	-	20
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,930	249,273
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	34,861	243,329
現金及び現金同等物の期首残高	559,728	486,426
現金及び現金同等物の四半期末残高	594,590	729,755

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間から、新たに会社分割により設立した株式会社エスプールロジスティクスを連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年12月1日 至 平成26年5月31日)
役員報酬	35,800千円	37,490千円
給与手当	162,620	188,279
賞与引当金繰入額	32,770	22,643
雑給	63,297	69,845
法定福利費	37,743	41,729
地代家賃	41,988	50,530
減価償却費	5,531	8,100
貸倒引当金繰入額	1,408	6,020

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年12月1日 至 平成26年5月31日)
現金及び預金	594,590千円	729,755千円
現金及び現金同等物	594,590	729,755

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成25年12月1日 至 平成26年5月31日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使に伴い、資本金が87,159千円、資本剰余金が87,159千円、それぞれ増加しております。これにより、当第2四半期連結会計期間末の資本金が237,159千円、資本剰余金が87,159千円、発行済株式数が2,765,400株となっております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	ビジネスソ リューション 事業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	933,390	1,667,278	2,600,669	-	2,600,669
(2) セグメント間の内部売上高又は振替 高	7,921	59,838	67,759	67,759	-
計	941,311	1,727,117	2,668,428	67,759	2,600,669
セグメント利益	90,139	144,907	235,046	175,358	59,687

(注)1. セグメント利益の調整額 175,358千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 176,531千円及びセグメント間取引消去1,172千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成25年12月1日 至 平成26年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	ビジネスソ リューション 事業	人材ソリュー ション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,308,365	1,929,351	3,237,717	-	3,237,717
(2) セグメント間の内部売上高又は振替 高	10,788	43,734	54,522	54,522	-
計	1,319,153	1,973,085	3,292,239	54,522	3,237,717
セグメント利益	124,037	170,737	294,774	171,827	122,947

(注)1. セグメント利益の調整額 171,827千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 171,188千円及びセグメント間取引消去 638千円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	17円8銭	36円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	44,129	99,949
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	44,129	99,949
普通株式の期中平均株式数(株)	2,583,400	2,719,367
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	平成25年11月28日取締役会決議の第2回新株予約権 上記の新株予約権を平成25年12月16日に割当てたことにより238個(株式数238,000株)増加しております。

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年7月9日

株式会社エスプール
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 木 智 博 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土 居 一 彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エスプールの平成25年12月1日から平成26年11月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年3月1日から平成26年5月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年12月1日から平成26年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エスプール及び連結子会社の平成26年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。